

# アイコイル超発電+1

渡辺 満（静岡県）

§0 はじめに

これは、通常の電子工学を超えた‘電磁ポテンシャル工学’である。

前回の「アイコイル超発電.pdf」を、さらに進めると、  
まだ、効率の上がる可能性が、見えてきた。

それは、

- 1) リール型アイコイルを使う。
- 2) コイル 0 の  $0c$  の巻き数を増やす。

理論的な見解から、強いアイ起電力を発生するアイコイルは、  
「コアが、巻き線の束を包み込むような、形状がよい」  
という指導原理を立ててみた。

この条件を満たすようなものとして、次の 3 種類が考えられる。

ネックレス型、EI 型、リール型

ネックレス型は、コアとして、ノイズ・フィルターを使用するのだが、  
ノイズ・フィルターは、その性格上、穴の大きなものがないので、  
とりあえず、対象外となる。

EI 型アイコイルについては、すでに、気の発生装置に応用し、

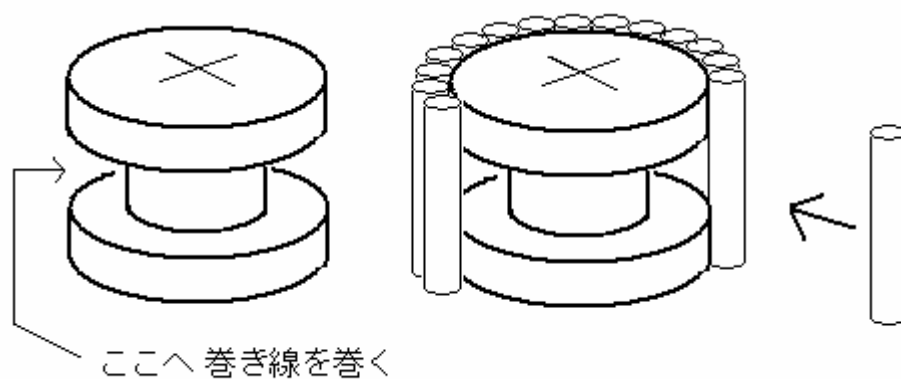
→ 「アイコイル発生気.pdf」

その結果、かなり良いものになった。

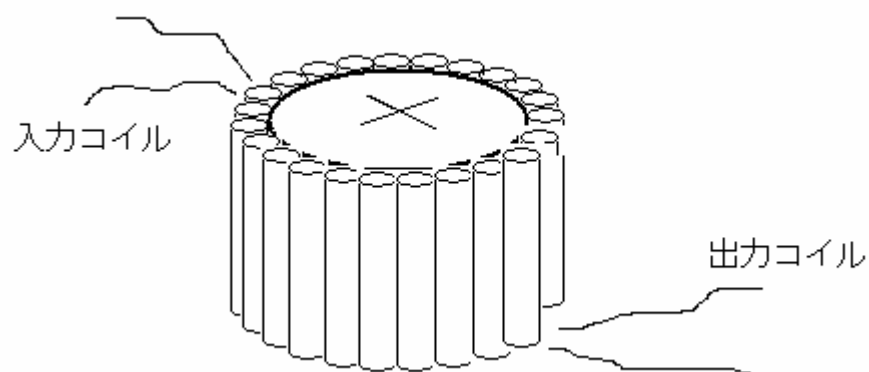
そこで、この EI 型を、フリーエネルギーにも、

応用してみようと試みたが、あまりよい結果は得られなかった。

●そこで、リール型アイコイルとなった。

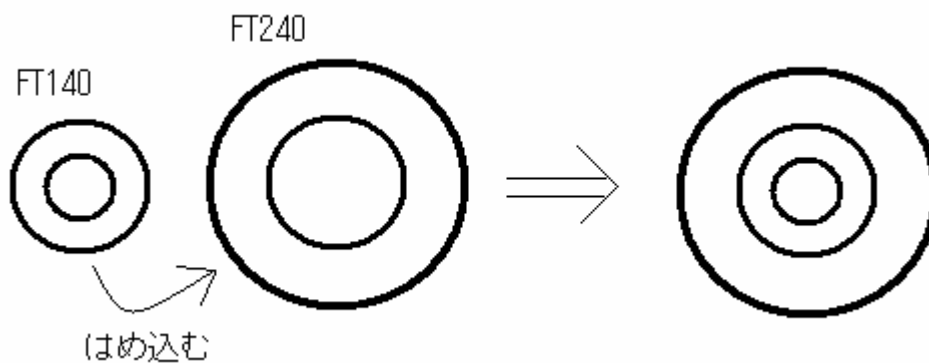
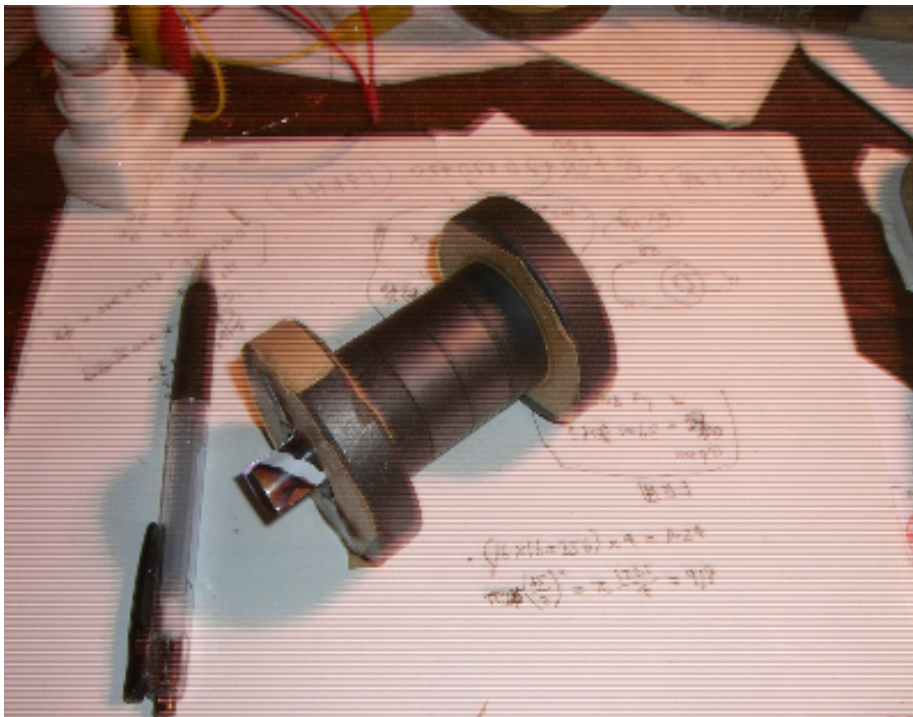


上図左のような、糸巻き型(リール型)のコアを用意し、  
 この糸巻き部分に、入力コイルを巻き、その上に重ねて、  
 出力コイルを巻く。  
 最後に、全体を取り巻くように、棒状のコアを回りに並べる。  
 こうすると、結果として、巻き線の束が、コアに包み込まれるようになる。



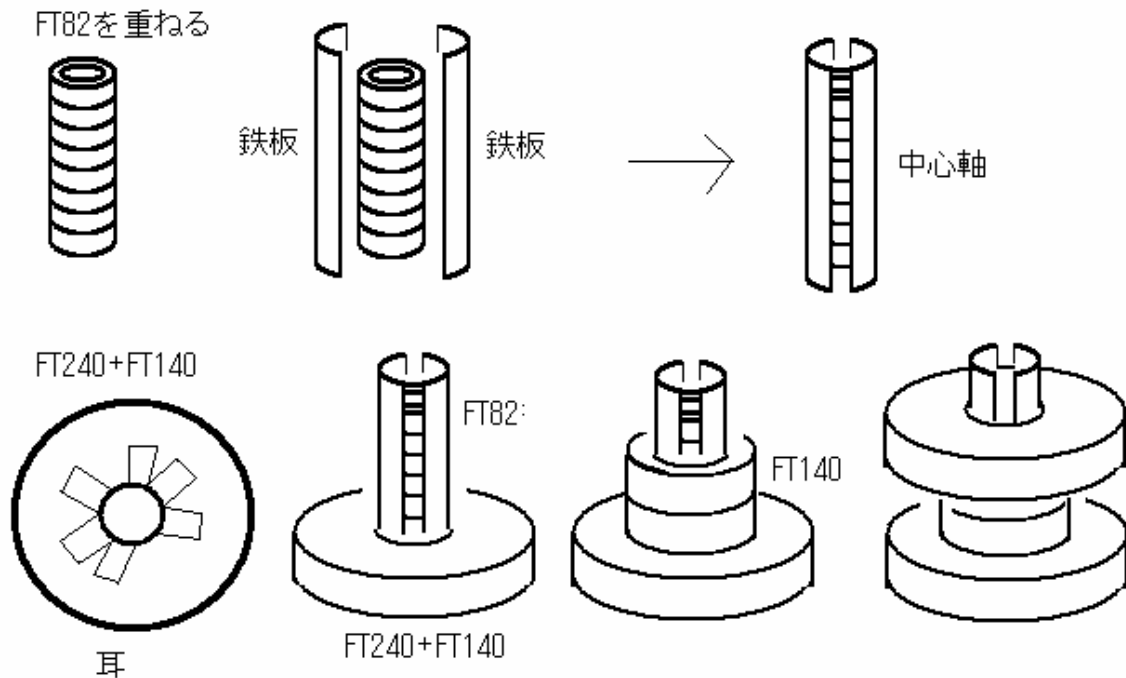
このリール型コアを、市販のものを、うまく組み合わせて作るのだが、  
 どうやったのかは、このあとに述べるとして、  
 実験を行ってみると、まあまあ、よい結果が得られた。

## §1 リール型アイコイル



幸いにして、うまく入るので、トロイダルコア FT140 を、トロイダルコア FT240 の中央の穴へはめ込む。  
これを2組作り、コイルの耳とする。

トロイダルコア FT82 を(N×2)枚重ね、その回りに薄い鉄板を巻き、これを中心の軸とする。  
この鉄板は、かつては、洋菓子や海苔などが入っていた空き缶で、それを、金切バサミで、幅 25mm ぐらいで、必要な長さに切る。  
あとは、次図から判断されたい。



耳を通したあと、FT140 を(N-2)枚通す。  
 両端に、鉄板のはみ出した部分ができるが、これを折り曲げて、  
 止め金とする。

FT140 の枚数 N によって、このコアの長さが、決められる。  
 …… FT82 は(N×2)枚必要。  
 今回は、N=6 とした。全体の長さは約 75mm。  
 FT240 の直径は 60mm。

●こうしてできた、リール型コアに、  
 出力コイルとして 50m(約 350 回巻き)、  
 その上に重ねて、入力コイルを 20m(約 130 回巻き) 巻いた。  
 本当は、入力コイルを先に巻いた方が、よいのだろうが、  
 今回は、成り行きで、こうなった。

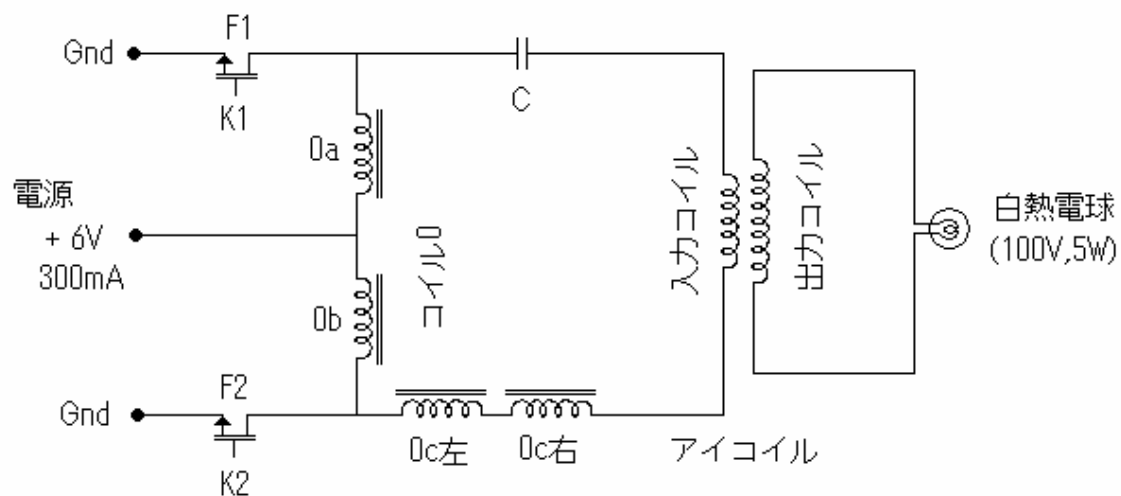
巻き線は被覆線:

協和ハーモネット 耐熱電子ワイヤー(単線) 銅線 0.5mmΦ、外径 1mmΦ

最後に、10mmΦ、長さ 12cm の棒状コア 21 本で、周りを囲んだ。  
 この棒状コアは、少し長すぎるが、そうそう、ちょうど良いのはないのだ。



## § 2 回路



回路は、前回の「アイコイル超発電.pdf」のものに、  
コンデンサ  $C=0.1\mu\text{F}$  を付けた、他は同じ。  
このアイコイルでは、 $C$  を付けたほうがよい。

次の点も同じ、  
電源は、IC のボードには、AC アダプター(DC9V, 0.65A)、  
コイル 0(本体)や MOSFET の方には、  
別の AC アダプター(DC6V,300mA)。  
このように、別電源にしないと、IC が壊れてしまう。

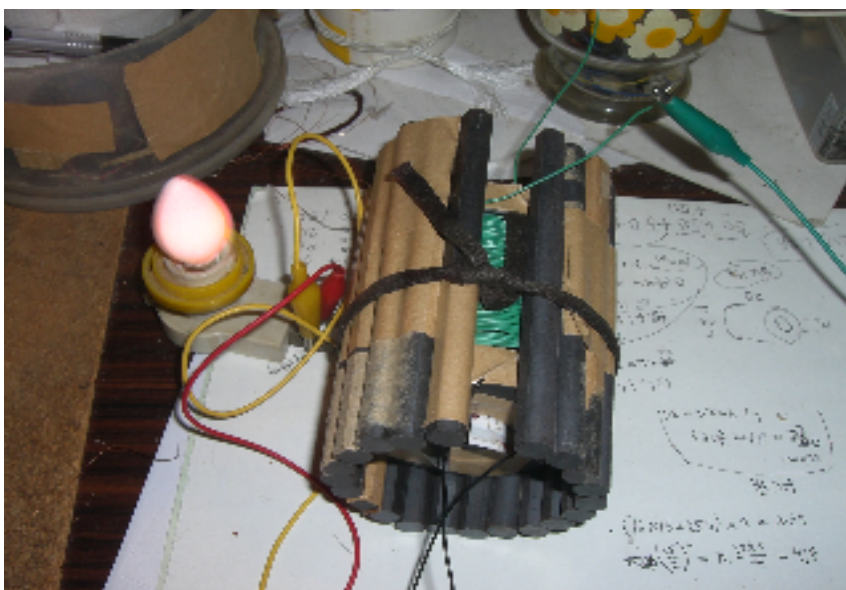
実験結果は、前回よりも若干、白熱電球が明るくなった。  
たぶん、こちらの方が、よいのだろう。  
なんと言っても、前回のトロイダル型アイコイルは、巻きにくいので、  
色々やりたくても、容易ではない。

● 次に、コイル 0 の、 $0c$  の巻数を増やした。  
前回の  $0c$  の巻数は、左右とも 40 回だったが、  
これを倍にして、80 回、さらに倍にして 160 回、とやってみた。  
そして、コンデンサ  $C$  の両端と、白熱電球の両端の、  
交流電圧を測ってみた。

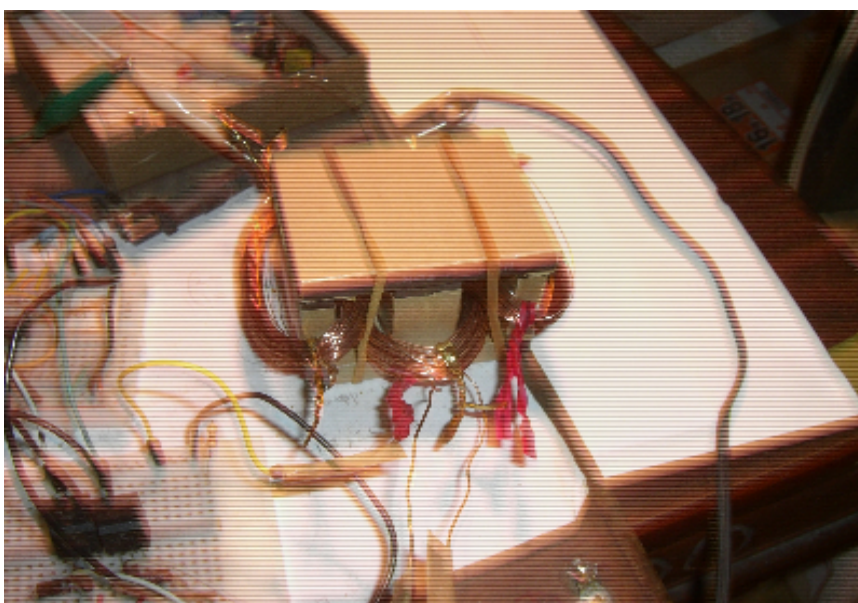
結果は次表。

	コンデンサ C	白熱電球	周波数
80 回 →	AC17V	AC43V	約 7kHz
160 回 →	AC37V	AC43V	約 4kHz

2 つとも、出力電圧が同じだが、理由はわからない。



下はコイル 0



---

2019年7月発行

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2019年